

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2025

令和7年
5月1日発行

No.73

題 字：眞方恵美子さん（下野上）



ゆめの森で夢の種を育てよう

3月
定例会



スマートフォン
でも見られます

令和7年度当初予算を可決..... ③

重点事業をクローズアップ..... ④

町政を問う 一般質問..... ⑧

大熊 I C 周辺に道の駅を整備 ⑭

46議案を議決

定例会のあらまし

令和7年第1回定例会は3月4日から14日までの11日間で開催されました。

第1日目に町長から復興へ向けた施政方針が示されました。

そのほか条例制定、改正および廃止、人事案件、令和6年度一般会計補正予算、令和7年度一般会計当初予算など46議案が提案されました。

第2日目は4人が一般質問を行い、復興の課題や新たな町づくりの提案をしました。

第10日目の本会議では条例制定、改正および廃止、人事案件、令和6年度一般会計補正予算など36議案を審議し、全議案とも原案通り可決しました。また請願書を全会一致で採択しました。

最終日の本会議では令和7年度一般会計当初予算など10議案のほか、請願書の意見書提出、委員会提出の条例改正を併せて審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ14人でした。



駅前に賑わいが戻る

町長施政方針の要旨

復旧・復興

令和5年度に国に認定を受けた特定帰還居住区域復興再生計画に基づき、対象区域の除染工事およびインフラ復旧工事が始まっている。引き続き国と協議を重ね、町内全域の避難指示解除に向け努めていく。

商業施設

原地区に出店が決定したスーパーマーケットについて1日でも早い開店を目指す。

また生活利便性の向上に資する店舗に対する補助金を創設し、各種小売店や飲食店などの新規出店を促すことで地域経済の活性化を図っていく。

住宅・生活支援

住宅需要の増加に対応するため、町内にアパートや戸建て賃貸住宅を建設する際の補助事業を令和7年度より新たに開始する。

また住宅の取得や修繕などに対して引き続き支援するとともに、宅地分譲の募集を行うなど、帰還者、移住者の住まいの確保に向けた総合的な取組を展開していく。

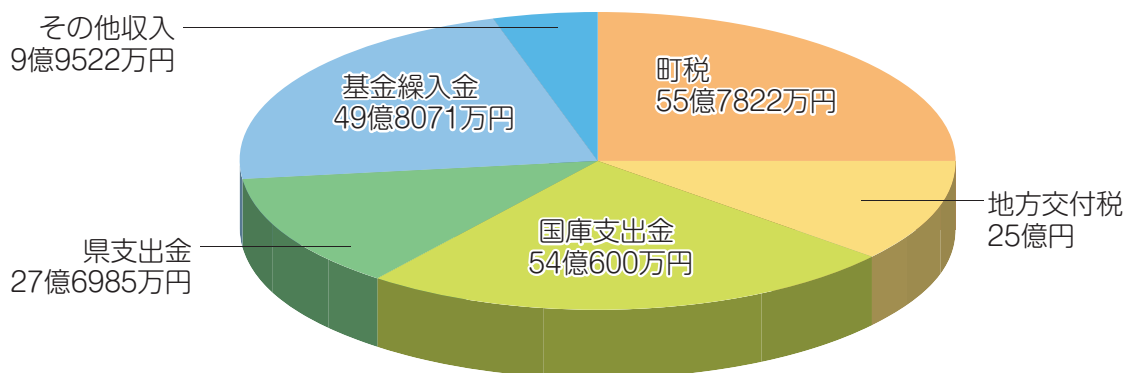
下野上地区復興拠点

駅西エリアの賑わい創出のため、新たに駐車場の整備を進めながら、商業施設南側の宅地に民間事業者による宿泊施設等の誘致を図っていく。

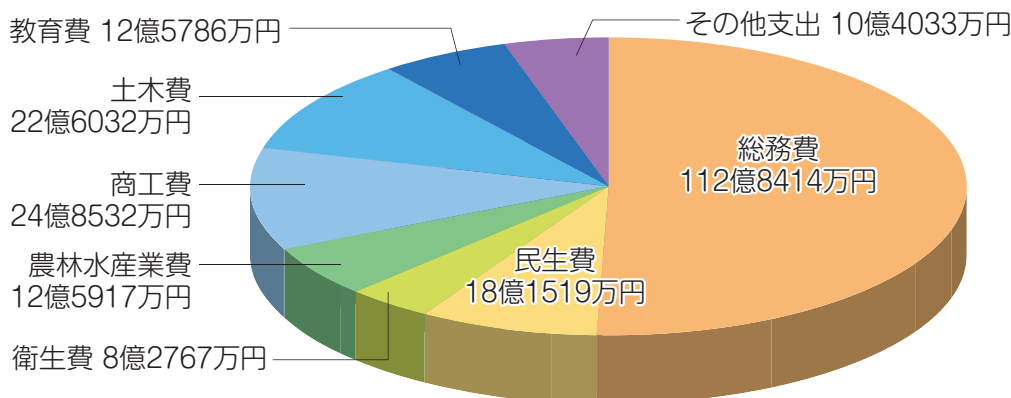
令和7年度予算を可決 一般会計総額 222億円

新年度予算は、復興拠点整備計画事業、総合運動公園整備事業、西大和久地区整備事業、大型商業施設整備事業などを柱とした、大熊町再生にむけた222億3000万円の予算となりました。
主な内訳を報告します。

入るお金 合計：222億3000万円



出るお金 合計：222億3000万円



特別会計 合計：37億8843万円

会計名	予算額
坂下ダム施設管理	7700万円
国民健康保険	19億8732万円
奨学資金貸与	1131万円
特定環境保全公共下水道	2億5196万円
農業集落排水	2億1645万円

会計名	予算額
工業団地造成	1826万円
介護保険	11億6322万円
後期高齢者医療	5351万円
霊園管理	940万円

(万円未満四捨五入)

買い物が より便利になります

令和7年度重点事業をクローズアップ

大型商業施設 整備

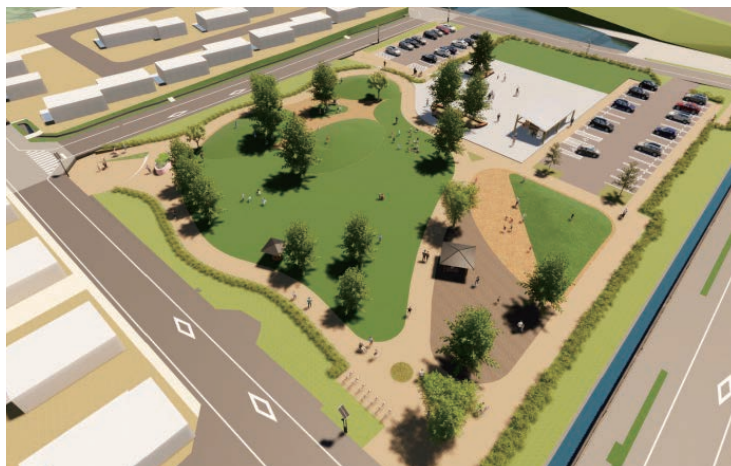
14億4517万円

原地区にスーパーマーケットを整備します。
オープンは令和9年度の予定です。



写真はイメージです

令和7年度の重点事業を紹介します。
新たな町づくりに向かって進んでいきます。



ふれあい 広場整備

1億6000万円

学び舎ゆめの森北側に、誰もが
利用できる広場をつくります。
健康遊具、東屋やトイレなどを
整備します。

住宅建設支援

1億6575万円

住宅需要の増加に対応するため、町
内に集合住宅や戸建ての賃貸住宅を
建設する際に補助します。



(万円未満四捨五入)

大野駅東側にも バス巡回を要望

第1回定例会にて令和7年度当初予算の審査を行いました。その中から主な質疑を報告します。

生活循環バス

問 大野駅東側に居住者が増えてきているが、今後東側にもバスを運行する計画はあるのか。

答 居住者が増加しているのは認識している。今後東側ルートについても検討していく。



利便性向上に期待

民間賃貸住宅支援

問 どのような支援を行うのか。

答 世帯での移住希望が増加し住宅不足が課題になっているので、新たに家族が住める賃貸住宅を建設するオーナーに建設費用を補助する。

問 補助率と留意点は何か。

答 補助率は建設費の1/2以内。上限額は戸建て住宅（61㎡以上）400万円/戸、集合住宅50～60㎡で250万円/戸、61㎡以上で300万円/戸としている。

留意点はゼロカーボン補助金との併用は不可となる。

住宅分譲

問 住宅建設までの期間等条件の設定はあるのか。

答 契約締結後5年以内に建築すること、また10年間は権利を譲渡することはできない。

生活利便性向上施設支援

問 新たな補助制度だがどのような制度なのか。

答 民有地で開業した小売業、飲食店、理容店、診療所等に人件費、光熱水費、通信費、広告宣伝費に対し最大300万円を補助する。

生涯学習自主サークル育成事業

問 この事業を実施する目的は何か。

答 自主的に設立した新しいサークルやグループ活動に対し立ち上げや初期の活動を支援する。将来

的に自立を促す目的で新設した補助制度である。

問 補助金額の詳細は。

答 発足時に5万円、年間活動費に上限10万円、補助率1年目3/4、2～3年目1/2となる。

補助期間は最大3年間としている。

遺構等保存検討業務

問 事業内容の詳細は何か。

答 熊町小学校校舎を含む中間貯蔵施設内の遺構等の保存や活用計画について調査、検討を行うものである。

住宅の新築や リフォームを支援します



帰還に弾みがつきます

福島県の帰還促進強化支援事業で令和4年6月に避難解除された以降に帰還し、住宅新築または住宅リフォームされた町民を対象に新築の場合は300万円、リフォームで150万円を支援する事業です。
なおそれ以前に帰還した町民には町の財源で支援します。

住宅促進補助事業

8386万円

第1回定例会にて令和6年度一般会計補正予算の審査を行いました。
その中から主な内容をお知らせします。

第1回定例会にて条例制定および一部改正の審査を行いました。
主な内容をお知らせします。

町税の減免条例制定

避難生活が継続していることから原
子力対策特別措置法に基づき減免される
条例制定です。

町民税の減免割合

令和6年中の 合計所得金額	減免割合
300万円以下	10分の10
300万円を超え 400万円以下	10分の5
400万円を超え 500万円以下	10分の2.5

出産祝金等支給条例の一部改正

出産祝金は扶養者に対し第一子または第二子が誕生した時に出生児一人につき10万円を支給、第三子からは一人につき20万円を支給する条例改正です。

第1回定例会にて全会一致で同意されました。

監査委員に

岩崎優二氏を新任

岩崎氏は現在福島県弁護士会に所属する弁護士です。



【住 所】
郡山市麓山
【任 期】
令和7年4月1日
から4年間

固定資産評価員に 吉岡健太郎氏を新任

【任 所】下野上宇大野
【任 期】令和7年3月13日から

固定資産評価審査 委員会委員に 野口美佐子氏を新任

【任 所】下野上宇大野
【任 期】令和7年3月20日から3
年間

利用できるお店増えます

第1回定例会にて令和6年度補正予算の審査を行いました。
その中から主な質疑を報告します。

プレミアム商品券

問 今年度の発行枚数
予定は。

問 昨年の発行枚数と
販売枚数は。

答 5000冊を発行
し、2400冊を販売
した。

答 前年度の販売実績
に加え駅西商業施設で
の使用増加を見込み3
500冊を発行予定で
ある。

宅地除草委託

問 自身で伐採した
木々、枝の片付けは可
能なのか。

答 ゴミの片付けのル
ールにしたがって自身
で対応することになる。

問 昨年度の実施件数
は何件か。

答 180件の申し込
みがあり実施した。

営農再開支援

問 復興再生拠点区域
で実施した農地の面積
は。また保全管理の終
了時期はいつなのか。

答 管理対象面積は2
80haであり、農地保
全は避難指示解除後3
年間であり今年度で終
了となる。

お待ちしております



福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求
める請願書の審査を行いました。

福島県の人口流出抑制策と なる最低賃金の引上げと早 期発効を

請願書の主な内容

①総理の所信表明演説における2020年代
に全国平均を1500円となることを目指
す。

②諮問時期は可能な限り早期発効を求める。

請願者

日本労働組合総連合会 福島県連合会
双葉地区連合会 議長 近野 悟史

住 所

福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

紹介議員

渡辺 誠

付託委員会

産業厚生常任委員会

処理経過

全会一致で採択、意見書提出

提出先

内閣総理大臣
厚生労働大臣
福島労働局長



ズバリ 町政を問う

復興への課題をとらえて

4人が一般質問

1. 廣 嶋 公 治 議員 9
 - ・次世代グリーン・CO₂燃料技術研究組合との連携について
2. 千 葉 幸 生 議員 10
 - ・中間貯蔵施設跡地の利用計画について
 - ・水道インフラの改良について
3. 石 井 和 弘 議員 11
 - ・指定避難所までの避難経路安全確保のための街灯を設置してはどうか
4. 武 内 正 則 議員 12
 - ・消防団の強化について
 - ・旧熊町小学校の保存・活用について

廣嶋 公治
ひろしま こうじ
議員



問 バイオエタノール植物を栽培し研究組合に提供を

答 町が委託生産し特定者に提供することは適切でない

廣嶋 町は令和4年10月25日に次世代グリーンCO₂燃料技術研究組合と「企業立地に関する基本協定」を締結した。

研究組合はカーボンニュートラルの観点から、植物を原料としたバイオエタノールの生産研究設備を建設しその副産物であるCO₂の活用方法も含めた低炭素化技術の研究を行うとしている。

新しい産業・雇用の創出等、町も積極的に協力していくべきである。

そこで提案として

①特定復興再生拠点の諏訪地区、特定帰還居住区域内秋葉台、金谷平、北向地区農地での作付けを奨励し農業者法人等へ委託をしてバイオエタノールの原料となるソルガムの作付けを行ってはどうか。

②ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）を実施する事業者に対して栽培を推奨することで原料価格を抑えられるのではないか。

③大型機械を導入、作付けに協力した農業者および法人等へ貸し出しはどうか。

④農地の一括借り上げをすべきではないか。

以上のことにより外部調達による輸送コストを削減、安定的に組合に原料を提供することにより双方の連携が一層深まり、研究組合事業の実現性が高まるのではないかと。

町としても農地の利活用の促進、地力の回復などが見込め、町に根付いた産業となっていくのではないかと。

町長の考えを伺う。

町長 次世代グリーンCO₂燃料技術研究組合は昨年11月に竣工以降稼働を開始している。研究組合の意欲的な取組は、町の目指す「ゼロカーボンの推進による復興町づくり」の実現にも寄与することから西工業団地の早期整備等環境整備に取り組んできた。

提案頂いた1点目はバイオエタノール燃料の原材料となるソルガムは研究組合が購入、委託生産等により調達すべきものであり町が委託生産して特定の者に提供することは適切でないと考えている。

栽培は研究組合の要望に応じて地権者や耕作希望者と検討を進める。

2点目にはソルガムは日向を好むうえ背丈が高い品種が望まれるのでソーラーシェアリ

ングには適さないと考えられ推奨は難しいと思う。

3点目は農業用機械には農地面積等により適正サイズがあり、また必要台数分の倉庫やメンテナンス等を考慮すると導入・管理することは難しいと考えるが

生産組合が設立され

ば機械の導入補助は検討する。

4点目は耕作能力を有さない町が農地を借りることは農地法上の許可を得ることは難しいと考える。

今後は研究組合の研究開発状況や要望に応じて町として可能な限り協力していく。



次世代燃料へ期待します

千葉 幸生 議員



問 利用計画を策定するための調査や研究を始めるべき

答 調査などの実施は検討していく

中間貯蔵施設跡地



搬出を待つ大熊4工区貯蔵施設

千葉 中間貯蔵施設に除染廃棄物が搬入されてから10年が経ち、2045年の県外への搬出完了まで残り20年となった。中間貯蔵施設建設のために、国が購入した土地は、別の利用計画がない場合、払い下げを行うことが推奨されている。

将来の大熊町の有り様を想像するに、多くの雇用が必要とされる施策が必要であるが、現在までの復興速度を考慮すると事業開始10年前には、中間貯蔵施設跡地の利用計画を復興計画に盛り込むことが肝要である。つまり今後10年間でどのような事業を実施するのか概略構想を決めるべき

である。

南海トラフ地震や首都直下型地震などは30年以内に70%以上の確率で発生し、関東圏にある火力発電所は、被害が想定される。今後生成AIなどの普及で今以上の電力が必要となることを考慮すると新たなエネルギー拠点が必要である。そこで中間貯蔵施設跡地に新たなエネルギー拠点の誘致を目指す土地利用計画を策定するために調査や研究を早急に始めるべきと考える。

町長 跡地の利用については国、県、大熊・双葉両町は、地域の振興および発展のため利用されるよう協議することになっている。町としてもその利用方法について議論をしていくことが必要となる。将来的には雇用を生み

つつ、地域の発展につながる再生可能エネルギーを中心とした拠点の誘致であれば、町の考えに合致する選択肢のひとつであると考えているので、調査などの実施は検討していく。

千葉 全国の主要な市町村は、上水道インフラではループルートを構築しており、どの場所でも、均圧された水が出るよう整備されている。ただ残念なのは

大熊町内の水道施設は単一ルートが存在しているため、上流側で大量に上水道を利用すると下流側では水圧を維持できず、減衰または断水する場所がある。今後、老朽化施設の整備やループルートの構築など、町が主導的立場で基本設計を行うことが肝要である。

内も含めて、現状の上水道のルート調査を大熊町が実施すべきと考える。

②調査開始から基本設計および上水道改良の詳細設計の完了までの概略工程と概略費用は、

町長 ①今後、老朽化した水道施設の整備やループルートの構築について重要な課題と認識しているので、調査設計を行うことが肝要であると考えている。

ただし、中間貯蔵施設内の具体的な利用計画が決まっていない現状では、調査等は難しい。

②ループ化を想定した中間貯蔵施設内の管路の調査設計には、概算で約3年程度を要し、その費用は調査に1億円、設計に2億円程度かかる見込みである。

石井 和弘
いしい かずひろ
議員



避難経路

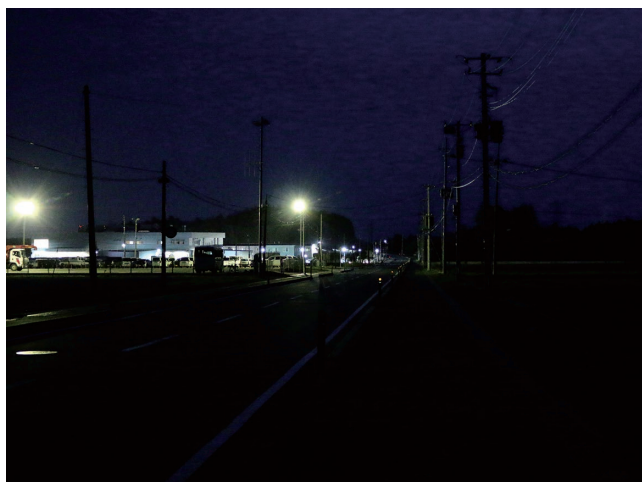
問 昼夜を問わず安全確保のため街灯を設置すべき

答 安全に避難できることが重要。早速取り組んでいく

石井 現在町で避難施設としてるのが役場本庁舎、学び舎ゆめの森、東京エネシス事務所、東京パワーテクノロジー事務所の4カ所設置されている。役場本庁舎や学び舎ゆめの森については、災害発生時が万が一の間であつた場合でも、当該避難施設周辺は街灯や防犯灯が多く整備されており、夜間であっても比較的 safely に避難できるのではないかと推測する。

一方で子育て支援住宅や再生賃貸住宅方面から東京エネシス、東京パワーテクノロジー両事務所までの避難経路については東67号線となるが、街灯等の設置はほぼ無い。避難経路としてはとても暗く、安全に避難できるとは言えない。体制が整いやすく災害復旧活動の事を考えると役場本庁舎や学び舎ゆめの森が適所だとは思ふ。

しかしながら昼夜を問わず、この避難施設へ避難する場合でも避難経路は全て安全な状態にしておく事が望ましいと考える。以上のことから、東京エネシス、東京パワーテクノロジー両事務所までの避難経路についても街灯を設置すべきと考えるが、町長の考えを伺う。



有事への備えが大事（同じ場所の昼夜の比較）

武内 正則 議員
たけうち まさのり



問 町が積極的に体制を強化すべき

答 企業訪問などとらえ加入を呼びかける

消防団



わが町は我々が守る

武内 町での帰還町民移住定住者は合わせて1300名となっている。駅前に産業交流施設、商業施設、また原地区にスーパーマールトができることにより人口が増える可能性は大きい。
そこで住民の安心・安全、命を守る消防団の体制はどうなっているのか。
現在の団員ではギリギリの運営であり、団

員に負担が集中している。住民の安全を守るのは町の使命、消防行政を充実するためには団員を増やすことが重要である。
そのためには、ただ待っているだけでは団員は集まらない。町長自ら勧誘し帰還住民・移住定住者に声をかけるなど町が積極的に体制を強化していくべきではないか。

町長 消防団は「自らの地域は自らで守る」という崇高な郷土愛の精神により、火災や災害が起きた際には地域の安心、安全の確保に大きく貢献されている。

消防団員の確保は急務であると認識している。現団員にさらに負担が集中することで、さらなる消防団離れに繋がることを危惧している。

移住定住者の加入促進に向け、消防団と共に各種イベントなどでの広報活動や勧誘を行っていく。
また私自身も東京電力をはじめ、町内に立地する企業の方に消防団加入について協力依頼をしているが、今後もし引き続き企業訪問やイベントなどの様々な機会をとらえて消防団加入を呼びかけていく。

熊町小

問 保存および活用の判断をすべき

答 新たに専門協議会を立ち上げ議論を重ねる

武内 この施設は平成29年第1回定例会一般質問の答弁で、保存についてこれからの検討課題とし町民や議会のアイデアなども取り入れながら、有識者の方々と協議を進めるとある。

のか、また解体するの
か早急に検討すべきである。

検討を行いたい。

調査は熊町小学校などの修繕方法の検討修繕費用の算出、活用方法の検討や運用にかかる費用の算出などを行う。

震災から14年、年を経つことに劣化が進んでいると思われる。保存して活用する

町長 現在、町文化財保存活用地域計画策定協議会において、令和5年7月から令和7年3月まで計6回の議論を重ねている。

その結果を基により具体的に検討する場として新たに専門協議会を立ち上げ議論を重ねていきたい。

今後は熊町小学校校舎などの保存・活用の可能性について調査、

南部衛生センター 焼却施設稼働



分別に協力を

令和7年2月28日第1回双葉地方広域市町村圏組合議会定例会を開催し5議案が審議され可決しました。
新年度予算は38億8472万円となりました。その中から主な予算内容を報告します。

南部衛生センター

7億272万円

檜葉町へ設置している焼却施設が完成し令和7年3月27日に落成式を実施同年4月1日より稼働を開始しました。

同施設は予算総額75億8274万円で整備した施設です。

消防本部庁舎整備

6億689万円

富岡消防署敷地内に消防本部庁舎を整備します。
庁舎内には指令センターを設置します。

ふたばワールド

6026万円

双葉地方の住民の交流を図るイベントです。

昨年度は広野町で開催され約4500人の来場者で賑わいました。
今年は川内村で開催予定です。

大型高所放水車更新

2億6101万円

平成11年導入から25年が経過したために新型車両を購入します。

令和7年第1回双葉地方水道企業団議会定例会が開催され、4議案を審議し全議案原案通り可決しました。
大熊町に関わる主な内容をお知らせします。

富岡北系(大熊地区)配 水流量計設置工事

野上増圧ポンプ場更新 工事

8636万円

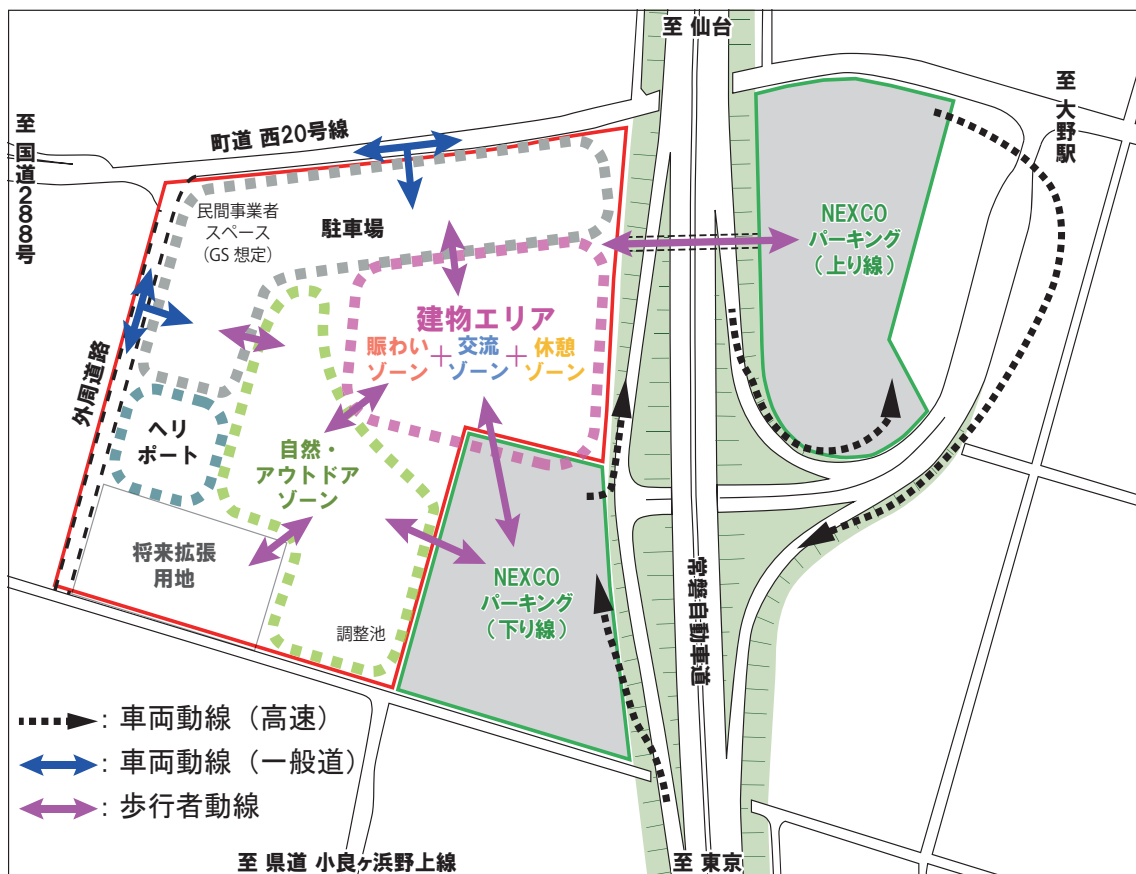
現在大川原に通水されている母管から次年度より夜ノ森地区への通水が開始されることから、各地区への通水量を正確に把握するため流量計を設置する工事です。

野上地区の生活用水を通水するために使用している増圧ポンプ場について更新する工事です。



生活インフラを守ろう

大熊 I C 周辺に 道の駅を整備



1月21日の全員協議会にて大熊IC周辺整備について説明がありました。
説明要旨と主な質疑について報告します。

大熊IC周辺整備

現在大熊町は大川原下野上の二つの復興拠点を中心に様々な機能を集約した利便性の高い市街地形成を推進しており、居住人口も年々増加傾向にありま

問 現在基本計画の段階とのことだが、実際に計画が動き出すまでのスケジュールはどうなっているのか。

答 令和8年用地買収造成工事開始が令和9年からと計画している。

また関東と東北を結ぶ常磐自動車道の交通量も増加しています。そのため利用者のための休憩施設が必要となっています。

問 常磐道のいわき仙台間にはガソリンスタンドが1カ所のみである。

以上を踏まえ、誰もが暮らしやすい町づくりを実現するとともに町のさらなる復興加速化に向けて、常磐道の休憩施設、地域振興施設「道の駅」の整備を行います。

答 道の駅整備においては水素ステーションを含むガソリンスタンドの計画はあるのか。

答 ガソリンスタンドは整備計画にあるので水素ステーションを加えて検討していく。

主な質疑

町内にパークゴルフ場が 帰ってくる

2月20日の全員協議会にて各課より説明がありました。
説明要旨と主な質疑について報告します。

西大和久一団地事業

産業団地、商業施設用地、防災広場の3つの用途で計画しています。

そのうち防災広場についてはパークゴルフ場として整備を検討しています。

パークゴルフ場の管理等工事については令和11年から着手し令和12年度に開業する計画としています。

主な質疑

問 震災前、ふれあいパークというパークゴルフ場があり、競技人口も多い。計画では令和12年開業とあったが早めることは可能か。

答 町民の方からの要望も多く上がっているので、早急に開業できるように努めていく。



楽しくプレーを

誰もが生涯スポーツを

総合運動公園事業

町民の方の要望などを取り入れて多目的グラウンド、管理棟、駐車場を整備します。

面積については約22畝を予定しています。

令和7年度に事業説明会を実施し、令和8年度から施設基本設計に入ります。
令和12年度に施設の



早く町内でプレーを

主な質疑

問 子どもからお年寄りまで幅広く安心して利用できる施設を計画してほしい。

答 誰もが利用できる運動公園を計画していく。

整備を進め令和13年度に開業する計画です。

フットサルで汗を流してます

大熊FC

「大熊FC」ではゆめの森さんさんアリーナにて月2回フットサルを行っています。

前半は基礎的なパスやシュート練習を行い、後半はミニゲームを実施。子どもたちは元気に走り回っていますが大人はバテバテです。

誰でも参加可能で未経験者やお子さんも多く参加しております。

ご興味ある方はぜひ一緒に身体を動かしましょう。



ナイスシュート



みんなで楽しくプレーしてます



ゴールを目指して

大熊FC 代表 岩船 夏海

傍聴に来てください

6月定例会は11日からの予定です

編集後記

去る、3月15日に大野駅西側の産業交流施設と商業施設のグラウンドオープンセレモニーが盛大に開催されました。かつて大熊の玄関口であり賑わいの中心であった大野駅西側が再び町の復興のシンボルとして賑わいを取り戻す形となり、復興が一步一步着実に進んでいると感じることができた。

当日はグラウンドオープンを心待ちにされた町民の方々が大勢おられました。テープカットセレモニーでは学び舎ゆめの森放課後児童クラブの子ども達が、大熊の特産品であるいちごの形をした風船をテープカットに合わせて一斉に空へ放ちました。

風船は風に乗り、町全体に広がっていきました。今後もこの風船のように、この場所から賑わいの輪が町全体に広がっていくよう議会活動にまい進していきたいと思えます。(石井和弘)

広報公聴常任委員会

委員長 渡辺 誠 委員 渡部 友彦

副委員長 島原健二郎 委員 石井 和弘

発行責任者 仲野 剛 委員 武内 正則

委員 阿部 光國

委員 廣嶋 公治